

1981年の創業以来、警備大手セコムの協力会社として主に同社が受注した公共施設や住宅などへの防犯カメラ、センサーの設置工事を担う。業界内で評価される技術力の維持と向上のため、従業員の資格取得を全面的に支援する。

(吉田隆則)



電気工事業を営んでいた創業者の故小島宜寛前社長が、セコムからの誘いに応じて協力会社となった。別業種からも声が掛かったが、将来性を見込んでセコムを選択した。「その選択があったから今がある。先代の英断だ」と話す。防犯意識の高まりに比例して市場は拡大した。「より良い環境で生活するためのインフラとなった」。公共施設だけでなく一般家庭でも防犯設備の設置が進む。建物の形状や規模などが多様化する中、機器の設置と配線を的確に施工する。

資格取得サポート

技術力の高さから、セコムからの信頼は厚い。より緻密さが求められる官公庁の施設

共栄電設 宇都宮

いけだ せいじ
池田 盛二社長(39)

防犯設備工事 高い技術



池田社長は1981年生まれ。相模原市出身。2004年に入社し、埼玉事業所長などを経て16年、専務に就任した。急逝した先代の後を受けて19年から社長。「創業した年と自分が生まれた年が同じという点に縁を感じる」と話す。本社は宇都宮市上籠谷町3755の2。同市道場宿町に宇都宮事業所を置くほか、埼玉県や山梨県にも事業所や営業所がある。従業員数は43人。資本金2千万円。20年9月期の売上高は約5億3千万円。

などでの仕事を依頼されることも増えた。全国約2500社あるセコムの協力会社のうち、受注額はトップ5に入る。創業以来、従業員の「第二種電気工事士」や「工事担当者」などの国家資格取得をサポートする。受験費用や教材費は会社が全額負担する。業務に直結する資格。取得へのモチベーションは高い」と胸

人材育成へ 自社施設も

を張る。工事の技術は代々、現場での先輩の指導で培ってきた。作業しながらの指導は安全面での不安がたまとう。さらに「お客さまの現場を教材にするのは失礼ではないか」との思いが募り、自社の研修施設を開設することを決断した。

創業の地の宇都宮市上籠谷町の本社敷地内に「技術トレーニングセンター」の建設を進める。来年4月の完成を予定する。ノウハウを共有し、技術を磨く拠点にする。

サービス面向上へ

「手に職」としての技術力だけでなく、サービス面の向上にも力を注ぐ。防犯設備を導入する人の不安を施工中に取り除きたいと考えたからだ。

従業員には「ブルーカラーとホワイトカラーを融合させた『スカイブルーの技術者』を目指そう」と呼び掛けている。今年4月からは、セコムだけでなく自社で受注した案件の施工も始めた。既に県内の公共施設や住宅の工事を請け負った。セキュリティ業は世間に評価される仕事。必要としている人に工事を通して安心を届けたい」と強調する。

取材を終えて 取材中「県外出身の自分を一から育ててくれた」と先代や会社への熱い思いが何度も聞かれた。入社当時に現場で仕事を教えてくれた先輩たちが変わらず在籍し会社を支えていることが経営者として心強いという。現場での仕事は体力勝負。「共栄で働きたい」との本人の意欲がある限り働ける環境をつくるため、別業種への展開を模索する。持ち前のバイタリティーで次の一手をどう打ち出すのか注目したい。